「第2期しまね教育ビジョン21体系（案）」と「自立を目指すしまねの子ども教育（仮称）」との関係

資料5

第2期しまね教育ビジョン21　体系【案】

基本理念	基本目標	施　策	具体的な取組
生きる喜び、学ぶ楽しさを通して、 一人一人の可能性を開花させ、 ふるさとを愛し、 社会の一員として自立して生きていくことができる人を 学校、家庭、地域が連携して育む	知・徳・体が調和し、夢や希望の実現を目指す自立した人を育てます	1. 明日の島根を創る学力の育成	○学力の向上 ○ふるさと教育の推進 ○情報教育の推進　等
		2. 豊かな心と健やかな体の育成	○心の教育の推進 ○いじめ・不登校に対する取組の充実 ○「生きる力」を支える健康づくり　等
	社会に貢献する心を持ち、地域づくりに主体的に関わる人を育てます	3. 一人一人の人権が尊重される教育の推進	○一人一人の学ぶ権利を保障するための基盤整備
		4. 信頼される学校づくりの推進	○学び続ける教員の育成と学校マネジメントの確立 ○安全・安心な教育環境の整備 ○学校・家庭・地域の連携協力による教育力の充実
	ふるさとへの愛着と誇りを基盤に、グローバルな視点を持つ人を育てます	5. 生涯にわたり豊かに生きる教育の推進	○一人一人の人権が大切にされる地域づくりのための基盤整備 ○社会教育の振興による生涯学習社会の実現 ○生涯スポーツの推進　等

「自立を目指すしまねの子ども教育」とは

○しまね教育ビジョン21に定める基本理念、基本目標を目指して、
○就学前から高等学校までの教育を
○キャリア教育の視点で整理し、
○各発達段階での目標・家庭のかかわり・健康づくりなどを示した
　しまねの教育構想

※「キャリア教育の視点」とは、将来、社会で自立して生きるための力を、社会との繋がりを意識しながら育むという視点。

自立を目指すしまねの子ども教育（仮称）構想図

〔目標3本柱〕

学力の向上　社会性の育成　ふるさと意識の醸成

連携・協力【幼稚園・保育所から高等学校までの指導の引継ぎと共有】

かかわる力・自ら学ぼうとする力を育てる
ふれる力・やってみる力を育てる
見通す力・やり抜く力・見つめる力を育てる
創り出す力・切り拓く力を育てる

社会・上級学校

就学前

- 身近な環境に好奇心をもってふれてみて、発見を楽しんだり考えたりさせる。
- 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わわせる。
- いろいろな遊びの中で、心を動かすようにさせる。
- 身近な人とのふれあいを通ざせ、思いやりや親しみの気持ちをもたせる。
- 良いことや悪いことがあることに気づき、考え従がう行動させる。
- 身近なくらしの中で、出会いを大切にし、喜び従生活体験を行わせる。

基盤としての健康づくり
- 食事、睡眠などの生活に必要な活動を自分でできるようにさせる。
- いろいろな遊びの中で動く楽しさと十分に体を動かすようにさせる。

小学校

学力の向上
- 身のまわりの生活や地域との関わりを通して、学びの目的を理解させ、学ぶ意欲を高める。
- 基礎・基本となる知識や技能習得の必要性を理解させ、その定着を図る。
- 家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図る。
- 学校図書館を活用し、情報を集める力や読み取る力を育む。

社会性の育成
- 挨拶やきまりごと、時間や約束を守るなどの、基本的なふるまいができるようにする。
- 様々な活動・体験の中で、自分の役割や責任を果たさせ、役立つ喜びや自己肯定感を体得させる。
- 縦割り活動を通して、働くことの意義について考えさせる。
- 社会と自己との関わりから、自らの夢や希望を膨らませる。

ふるさと意識の醸成
- ふるさとについて、知る、感じる機会を与えることで、ふるさとへの関心を高める。
- 英語等の異なる文化に触れさせ、親しみを感じさせる。
- 地域の資源資産（モノ・ヒト・コト）に触れることで、ふるさとへの愛着を育む。

基盤としての健康づくり
- 食事、睡眠、運動などの基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- 運動遊びを通して、遊んで運動を楽しもうとし、いろいろな運動ができる力を育てる。

中学校

学力の向上
- 実生活、地域・社会や将来との関わりを通して、学ぶ目的や意義を理解させて、学ぶ意欲を高める。
- 基礎・基本の確実な技能の習得と定着を図り、それらを活用して、課題を解決する能力を育てる。
- 自らの進路を考えた、主体的な家庭学習ができるようにする。
- 学校図書館を活用し、情報を的確に読み解く力、活用できる力を育む。

社会性の育成
- 挨拶やきまりごと、時間や約束を守る等、型や状況に応じたふるまいが意識的にできるようにする。
- 様々な活動・体験を通して、集団の中での役割や責任の存在を意識させ、人間関係を築くための実践力を体得させる。
- 職業体験やボランティア活動等を通して、勤労観・職業観を高め、助け合って生きる喜びを体得させる。
- 社会と自己との関わりから、自分の将来に希望を持ち、自分らしい生き方について考えさせ、態度を醸成させる。

ふるさと意識の醸成
- 地域社会の実態に触れる機会を与え、地域と自分とのつながりや社会における課題等への関心を高める。
- 異文化交流や多文化への関心を高め、コミュニケーション能力を育む。
- 地域の教育資源を活用した学びを通して、ふるさとへの誇りや語りを育む。

基盤としての健康づくり
- 基礎体力に関心を持ち、自らの力で基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- 運動好き活動など様々な経験を通して、運動に親しむ資質を育てる。

高等学校

学力の向上
- 学びの先にある社会を意識させ、進路実現に向かってチャレンジしていく意欲を高める。
- 未来社会や自らの将来に役立つ、専門的な知識や技法、情報活用能力を身に付けさせる。
- 進路を通して課題を探き、課題力や表現力、判断力を高めるとともに、ICTも活用して情報を収集し的確に対応できる力等を育む。

社会性の育成
- 挨拶や時間厳守等、社会で適用するマナーを身に付けさせ、型や状況に応じたふるまい方を的確にできるようにする。
- 各種の体験的活動を通して、社会に主体的に参画していくために必要な力や態度を育てる。
- インターンシップや企業見学、職業意識啓発セミナー等を通して、地域社会や事業所等のめざす人物像を意識させる。
- 社会と自己との関わりから、自分の特性を生かして社会貢献できる将来の在り方を、具体的に描かせる。

ふるさと意識の醸成
- 地域の実態や郷文化に触れるなど、多角的な視点でふるさとを捉えさせることで、ふるさとの魅力や課題に気付かせる。
- 多様な価値観を理解し、グローバルな視野を持ったお働ができるようにする。
- ふるさとと自分の将来を考えさせるとともに、自分の特性や生き方に応じたふるさとへの貢献の在り方を考えさせ、その意欲を高める。

基盤としての健康づくり
- 社会的自立に向けて、自らの力で健康的な生活習慣を身に付けさせる。
- 運動・スポーツに主体的に取り組むことにより、自らの健康を維持できる実践力を育てる。
- 生涯にわたって運動を楽しむ力を身に付けさせる。

- しっかり聞き、しっかりなめる。
- 目をしっかり見て話を聞く。
- 挨拶や基本など基本的な習慣づけをする。
- 自然の中で遊ぶなど、本物の体験をさせる。

- しっかりなめ、しっかり話す（考える）。
- うなずきながら、話を聞く。
- 自分のことは自分でできるように基本的な生活習慣づくりを促す。
- 自分の良さを知り、その良さを生かすことができるよう導く。

- しっかりなめ、しっかり話し（考え）、導きます。
- 話を素直に聞き、吸収を受け止め、積極に振る。
- 最後ある、望ましい生活習慣のリズムが確立できるよう促す。
- 自分の良さを生かし、目標に向けて努力できるよう積極に振り、導きます。

- 協会の理解者として、温かく見守り、支える。
- 人生の先達として相談に乗り、アドバイスする。
- 自分のことは自分で管理・実践する大人としての生活リズムが確立できるよう支援する。
- 社会の一員として、自分が生かせる目標を持ち、達成に向けてチャレンジできるよう、励ま海面で支援する。

家庭のかかわり・役割

連携・協力（相互理解による情報共有と協働）

地　域　の　支援

社会的・職業的自立とふるさとへの貢献